

☆東海道 藤沢の宿を散策する

2017/4/9

催行日：2017.4.19（水）

集合：藤沢本町改札口（小田急江ノ島線） 9：30am

コース：駅前～北向き不動尊～白旗神社～義経首洗いの井戸～永勝寺～常光寺～妙善寺～陣屋橋～庚申塔～藤沢陣屋跡～遊行寺橋～ふじさわ宿交流館～遊行寺～藤沢橋バス停

案1：中川駅 8:24 → 横浜駅 8:50/9:01 → 藤沢駅 9:23/9:27 → 藤沢本町駅 9:30 着

注：横浜で JR 湘南新宿ライン快速・平塚行に乗換え、9 番線でホーム中ほどの乗車が良いです。
藤沢で小田急江ノ島線・相模大野行に乗換え、一つ目で藤沢本町です、出口は先頭にあります。
（↑江ノ電とは違います、ご注意ください。）

案2：中川 8:11 → 戸塚 9:05/9:13 → 藤沢 9:23/9:27 → 藤沢本町 9:30 着

案3：中川 8:03 → 湘南台 9:08/9:18 →
（小田急・片瀬江ノ島行）藤沢本町 9:25 着

駅を背に左へ50M位で左折、その先の三叉路を右へ道なりに直進します。その先の材木屋の右角に「北向き地藏堂」があります。そこを左に入り市街地を直進します。200mで広い道に出ます。左に向かうと正面に大きな鳥居が見えて来ます。

信号を渡って白旗神社境内に入ります。ここには源義経公の霊を祭った記念碑があります。また元の道に戻り反対側の道（旧東海道）を進み、白旗の信号を左折してすぐ交番に沿って左へ曲がると突き当りに「義経首洗いの井戸」があります。

戻って先ほどの信号を渡って左折、すぐ先の「JAさがみ」の所を右に入ります。200mほど先の左側に「永勝寺」（浄土真宗）があります。



藤沢本町駅改札口を出て左へ向かう駅前通り→



←左側に材木屋、右角に地藏堂があります



←先ほどの広い道に戻ります ↓白旗神社の大鳥居



←義経公の碑と首洗いの井戸 ↓白旗神社



永勝寺→

永勝寺には、江戸時代宿場で働いていた飯盛り女のお墓があります。
 (旅籠小松屋に抱えられていた飯盛女の墓39基、1800年頃とされる)

また元の道に戻り妙善寺バス停の先を右に曲がって「常光寺」(ヨネ・ノグチ)の墓へ、そしてまた戻ってその一つ先の信号を渡り直進します。そして次の信号の所で左に入り、一つ目を左折、200mほど先の右側に「妙善寺(日蓮宗)」(家康公の側お萬の方のお墓)があります。

←常光寺のカヤ



常光寺



妙善寺

山門を出て右へ、寺の塀に沿って進むとお寺の会館があります。正面に藤沢市民病院があります。寺の裏手のお墓に沿って進むと、その先に旧東海道御殿跡の説明版があります。

その先の三叉路を左に入り左手に市民図書館を見てその先を左へ、突き当たって右へ、また突き当たって左へ、水路を渡った右側に一か所に纏められた庚申塔が立っています。その先の川は境川（白旗川）です。もと来た道に戻り突き当たって左へ、先ほど通った材木屋の所に出ます。右に進めば旧東海道です。正面に郵便局を確認して左へ進みます。通りに面して古い商家（紙屋）があります。

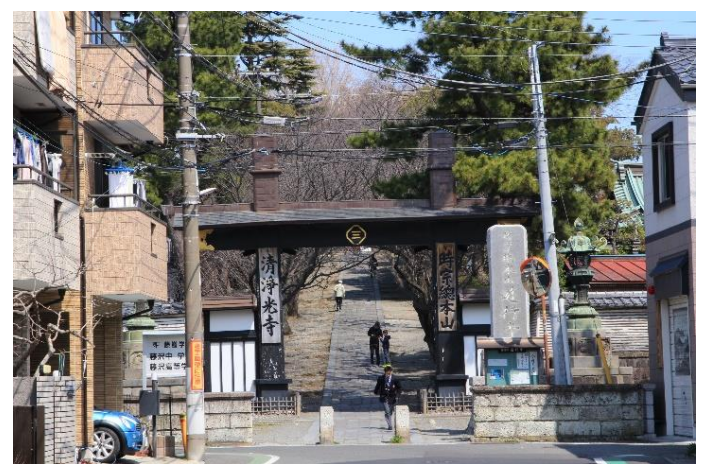


このようなイラストが通りのあちこちにありますが ↓



通りに面した商家と「ふじさわ宿交流館」

そして30号線にぶつかる手前に大きな案内板があります。この直ぐ先に「ふじさわ宿交流館」がありますので小休止しましょう！ いろいろな資料なども置いてあります。そして直ぐ脇の境川にかかる遊行寺橋を渡れば「遊行寺」の黒門が見えて来ます。



境川にかかる遊行寺橋と遊行寺の黒門

藤沢中学・高校の生徒もこの先にある学校から門をくぐって出てきます。広い境内は見所が一杯あります。十分に楽しんでください。

遊行寺：踊り念仏で知られる一遍上人(遊行上人)(1239～1289年)を開祖とする時宗の総本山。
(正式には清浄光寺)

遊行寺境内の大銀杏→



お寺の裏手に回ると歌舞伎などで有名な小栗判官と照手姫のお墓も、また境内には敵味方供養塔や中雀門などが有名、また境内の大銀杏は秋には皆さんを圧倒するでしょう！



帰りは門前を出て藤沢橋バス停から神奈中バスで戸塚に戻ります。 または反対側のバス停から藤沢駅にバスで行けば時間短縮となります。歩いて藤沢駅までは 20 分程度です。



小栗判官のお墓と照手姫のお墓です



敵味方供養塔

一遍上人の思想は、浄土真宗の親鸞上人の「衆生が阿弥陀仏を信じたときに救われる（極楽往生）」という他力本願の考えをさらに一歩すすめて、「南無阿弥陀仏という名号をとれば、阿弥陀如来が衆生を救ってくれる」とするもの。 この他力念仏を人々にすすめて、もろともに極楽浄土での往生を願った一遍上人は、生涯を通じて「南無阿弥陀仏決定往生六十万人」と記した念仏の“名号札”を配る賦算(ふさん)をしながら全国を遊行した。毎日六回、念仏を称える念仏者を六時衆「時衆」といい、これから「時宗」と呼ばれるようになった。

時宗は鎌倉・室町時代には猿楽師の観阿弥・世阿弥や、同朋衆、仏師、作庭師としての文化を担い、全盛期を迎えたが、教団の維持ために幕府や大名などの保護を得るようになると、庶民教化への熱意は失われ、時宗は浄土真宗や曹洞宗の布教活動によって侵食されることになった。